

「小さな自然再生」を大きく育てたい

代表理事 塚原 浩一

「小さな」自然再生を「大きく」育てていきたい、強くそう思っています。是非多くの皆さんに、この取り組みに共感し賛同し参画していただくよう心からお願いします。

誤解を恐れず言えば、多自然川づくりは元々は河川管理者目線のもの。これまでも多くの成果をあげてはきたが、河川を管理する責任を負った立場では、地球温暖化・大規模水害頻発のなかで、自然環境のケアには十分手が回り難い、目が行き届き難いのが実情かもしれません。

一方で、治水対策は「流域治水」に舵を切りました。治水も社会全体で取り組むことが求められています。元々は河川環境の取り組みこそがそうだったし、これからもそうあるべきだと思います。

今こそ地域と市民の出番であり、その新しい時代の先進の取り組みが「小さな自然再生」だと思います。社会全体・流域全体で河川環境を守り再生していく取り組みの拡大を目指したいと考えます。

元々治水優先で改修せざるを得なかった河川も、改めて丁寧に手を入れれば自然を回復するポテンシャルを大いに有しています。これからは流域治水の取り組みとそこから生まれる工夫・知恵のなかで、治水機能の向上と自然環境の保全・再生を一体的に図っていく必要があります。流域治水には、グリーンインフラの活用、生態系の保全・創造を合わせて進めることが求められており、「小さな自然再生」はそのコンセプトを体現し大きな役割を担っていくことのできる取り組みだと思います。

「小さな自然再生」はそうしたこれからのニーズに、河川管理者と市民が協働する川づくりで応えるものです。流域の成り立ちやその川の自然の営みを身近で良く知る地域の力と知恵を結集し活かすことが求められます。大規模に多額の予算を使う事業が必要な場合もありますが、それ以上に地域に密着したきめ細かい「小さな」工夫を凝らしていくことがより重要だと思います。そのためには多くの様々な関係者の共感と参画が必要です。川の状態を最も関心を持って細やかに見守ってくれるのは地域の皆さんです。そういう地域のポテンシャルを最大限に活かしていく必要があります。一方で、河川管理者の理解と参画ももちろん重要です。河川の専門技術力と市民力・地域の総合力が協働していくことが大切です。市民と行政の現実的なコラボが大きな力になります。

活動の結果だけでなくプロセスも重視されるべきです。普段からの川の見守りや維持管理と一体となった順応的な取り組み、やってみて失敗してもそれを許容しやり直す、そういう緩やかで息の長い取り組みが求められています。そうした細やかな工夫の中で確かな技術・経験知・現場知が育まれ、それを河川管理へフィードバックしてもらえれば、より良い川づくりが進むことが期待されます。川づくりのあり方を根本的に変えていく可能性もあり、「小さな」ひと工夫がその川にとってのブレイクスルーにもなり得るのではないかと思います。

「小さな自然再生」のよいところは、「できることから始める」気楽さと様々な主体の参加しやすさであり、手軽に得られる達成感・充実感、楽しさの実感だと思います。活動自体が「シビック・プライド」であり、結果として得られる河川環境がさらなる「シビック・プライド」となり、地域の新たな財産となることが期待されます。「小さな自然再生」の取り組みそのものが地域の総合力を上げることにもなります。単なる環境教育にとどまらず地域社会全体としての教育・人材育成システムにもなり得ると思います。

多くの皆さんに「小さな自然再生」研究会の取り組みに関心を持っていただきたいと思っています。事務局も、協力いただいている先生方も半ばボランティアに近い活動です。純粋に川を愛し自然を取り戻すことを願う取り組みです。是非多くの皆さんにこの活動を知り共感し一緒に取り組んでいただきたいと思っています。地域の財産である河川の自然環境の保全・再生のため、地域自らができることがたくさんあります。まずは「できることから始める」気持ちが大切であり、そこから協働の輪を広げて欲しいと思います。「小さな自然再生」に一度でも関わった皆さんは是非この取り組みを周囲に広げる伝道師として普及活動の努力をお願いしたいと思います。身の丈にあった取り組みを、できることから始めて徐々に広げレベルを上げていく、そういう草の根の運動です。

最後にもう一度、「小さな」自然再生を「大きく」育てていきたいと思っています。「大きく」育つポテンシャルは十分あります。是非多くの皆さんのご支援をお願いします。